

律法の真実 (ヨハネ 7:23-24)

自分なりにルールを守って正しく生きようと努力することは、正解だと当たり前に思っています。しかし、その結果、自分にもほかの人にも役立たず、福音(キリスト)に敵対する悲しいことになる場合があります。きょうの聖書箇所では、38年間も病氣だった人をイエス様がいやされたのですが、それが安息日だったということで、パリサイ人たちがルール違反だと攻撃しました。そこで、うわべではなく、正しいさばきをしなさいとイエス様が言われたのです。パリサイ人たちは、律法の真実を正しく理解していなかったのです。

律法は神様からのもので、内容はルール、戒めですが、**律法の真実は福音**です。そのためには、**人間の真実**を理解しなければなりません。律法は、人間は無能であり、絶望的な存在で、希望のない罪人だと現すために与えられたものです。人間は律法を守ることができません。なぜなら、人間は悪魔から出たと言われる存在であり、神様から離れ、神様の祝福が断たれ、霊的に死んでいる、霊的に親のいない孤児の状態だからです。律法の前に立てば、守りたいのに守れない霊的に迷子の状態であるとわかります。ですから、キリストの他には救われる希望はまったくなく、**唯一キリストだけが希望である罪人**であることがわかるのです。キリストにのみ、まことの救い、まことの安息(安らぎ)、まことのいのちの祝福があること、これを示すことが律法です。このように内面の真実を忘れないようにさせるために与えられたのが律法です。律法は神様の愛です。神様は人間がどんな問題に引かかっているのかをご存じですから、それを知らせるために律法を与えてくださいました。人間は義人はひとりもいらず、人間のうわべとは関係なく、すべての人が罪を犯している存在です。ですから、だれかが偉いとか、正しい、まちがっているなど言うことができない、神様の前には、すべての人が平等に、神様の御怒りを受けるしかない存在で、滅びの危機に直面している存在なのです。人間をお互いに比較するのは、人間がわかっていないからです。真実は、「常にキリストでなければ

ならない」ということで、**律法の本来の意図は「それでもキリスト、だからキリスト、結局キリスト」**だということです。キリストを信じることで、あなたも生かされ、他の人も生かされるという真実を覚えるために、うわべとして律法を与えられたのです。ですから、律法はすべてうわべで、その中身は福音=キリストです。

その内面が抜けるなら、うわべのみさばくことになります。がんばってルールを守って生きようとするなら、ルールが自分を苦しめるようになります。守れないから、イエスのところに来なさいと言われていて、多くの人に感動を与え、人間的にすばらしいからといって、神様が感動されるのではないのです。すべての人は罪人なので、キリストの他には希望はありません。**中身が抜けた、福音を排除した律法**

は、滅びになります。うわべのみ残っていて、うわべを基準にして人をさばくと、あぶない高慢に陥るか、危険な安心につかまります。うわべを守ったつもりになって大丈夫だと思ったり、守らなければならないと重荷を負ったり、守るか守らないかが、**さばきの剣に変貌**するのです。律法は神様からのルールですから、文句を言えなくなり、そのいのちのみことばが人を殺すさばきの剣になってしまうのです。そのようになると、**キリストに敵対する結果**となります。結局、パリサイ人は、イエス様を律法を破った者として、十字架につけて殺してしまいました。

キリスト、福音が抜けたうわべは、絶対的なパワーをもつようになります。正しく生きようとするのが自分の首をしめて、人をさばき、結局は福音がどうでもよくなるのです。律法をうわべだけでとらえると、ルールを守ることが正しい人間であるかのように、福音を誤解させることになります。その結果、**福音をきらうようになる**のです。福音は、真実を見るとキリストしかないゆえ、律法を守るのではなく、信じなさいと、信仰によって生きようと言うので、自分たちが大切にしていることをひっくり返すので、きらうようになるのです。そして、福



音を殺す方向に向かいます。それは、カインとアベルのときから、ずっと続いていることです。本当の真実を語る預言者たちが殺され、初代教会も、旧約聖書をいのちのように守っていたユダヤ人、パリサイ人たちが攻撃されました。正しく生きることが正しいという考えを修正すべきです。

律法の本来の真実は、「キリストを信じなさい、キリストを信じる時に救われる。それ以外、道はないということ」です。それを忘れないようにと与えられたのが律法です。クリスチャンでもルール、きまりに縛られていることが多くあります。**ルール以前にキリストを優先して、自由になりましょう。**キリストを思うことを優先して、キリストを持ち、キリストの上に立ちましょう。正しく生きる存在ではなく、キリストとともに生きるのです。そのとき、正しくなるようになります。キリストを優先しないで、正しく生きることを優先すると、キリスト、福音、信仰を殺してしまいます。恵みを受けているのに、自分の肉によって福音化をさまたげようになるのです。キリストによって新しく

はじめましょう。そのために、聖霊の導きを求め、みことばを握り、聖霊の力を求めるようになります。自分も他の人の判断もキリストにしましょう。ほかのことを基準にするなら、振り回されます。

正しい、正しくないを優先にするのではなく、伝道のために生きましょう。律法の真実を理解して、**基礎を福音にし、その上に屋根を伝道**にしましょう。その間で、判断をするのです。福音に基づき、伝道のために判断しましょう。すでにイエス・キリストにあって、いのちが与えられていて、うわべの目的はすべて果たされています。自分は正しい者、神の者、幸いな者、神の神殿だということからスタートしましょう。ここに本当の意味で正しく生きることがあります。そして、すべての目的が福音宣教、伝道、人を生かすことにしましょう。「真理があなたがたを自由にします」という約束を味わうように祈ります。

(<http://jremnant.com> に音声と動画が出ています)

メッセージカード

ヨハネ 6: 23-24 律法の真実

なるほど/神は最初から福音を与えられ福音のためにうわべとして律法を与えられたのに、ユダヤ人たちは、福音を無視したまま、律法のうわべに捕らわれた結果、律法が重荷になり裁きの剣となって、最終的に福音に敵対することになる。いくら正しいルールに基づき正しく生きようとしても、福音を排除したものは正しいこととは逆行するし、逆効果となり、失敗となる。ならば/法のうわべより先に、キリスト優先思想で武装しよう。キリストを裁きの基準にして、自分と他人を見よう。福音を基礎にし伝道を屋根にして、すべてを判断しよう。

インマヌエル教会聖日メッセージ祈り文 (2017年6月25日)

1部礼拝 : 霊的離脱、霊的放棄、霊的持続 (1列 19:1-8)

私の羊飼いである神様、私のたましいを生き返らせる神様の契約を知って、信じて、神様の限りない力と答えを得ることが出来る祈りの時間にくださり感謝します。霊的離脱時代にガレル山の祈りを回復して、その祈りの力を持って世の中の人々を生かしますように。霊的放棄時代にいる私に、ホレブの山の祈りと力を持って、神様が与えられる答えを味わいますように。霊的危機の時代にドタンの町運動の答えを持って、人を生かす私の霊的な背景、霊的な力を味わいますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

2部礼拝 : 公務員オバデヤ (1列 18:13-15)

危機と問題があるとき、オバデヤがいたその契約の中にあるようにされて、神様の限りない力、御座の背景を味わうようにされて感謝します。悪い政治家の中でも信頼される者であり、伝道者の弟子としてすべての環境を超えて生かす役割を果たしますように。最悪の状況でも伝道者を生かして、弟子とレムナントが起きるドタンの町運動の答えを味わいますように。国を生かす見張り人、伝道者の家主、レムナントを生かすホーリーメイソンとして時代を生かす祈りの証人になりますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。